

学習者相互に目標を確認し評価し合う家庭学習に関する考察

阿 部 隆 幸*

(令和元年8月30日受付；令和元年11月28日受理)

要 旨

本研究では、小学校高学年の家庭学習において、「学習者相互による目標に基づいた形成的な評価をくり返しなが

KEY WORDS

宿題、家庭学習、学び合い、学習意欲、目標と学習と評価の一体化

1 問題の所在と研究の目的

宿題や家庭学習に関する研究の積み重ねは少ない。家本（1997）は、「宿題は教育研究の周辺の問題で、文献もまったくない。本書がこれからの研究や実践に少しでも役立てば幸いである」と述べている⁽¹⁾。実際「宿題」や「家庭学習」をキーワードに論文を探ると古くは教育雑誌「児童心理」等が1960年代中期に特集を組む程度である。内容に関しては、滑川（1961）⁽²⁾や坂本（1960）⁽³⁾に見られるように宿題や家庭学習の進め方や考え方が主である。学習者の意欲面から迫る研究はほとんど見られない。アクティブ・ラーニング⁽⁴⁾の必要性の高まりから「能動的な学修への参加」が注目されている。教える（指導する）側ではなく学ぶ（学習する）側へ視点が向けられていると言える。宿題や家庭学習の面でも進め方や考え方といった指導する側の研究ではなく、宿題や家庭学習を取り組む姿勢や気持ちといった学習者側の研究が必要である。

本研究を進めるにあたり宿題と家庭学習を以下に定義づけする。言葉の意味のとらえ方の違いにより、学習者の参加の姿勢（能動的に参加しやすいか否か等）の解釈が異なるからである。

本研究はベネッセ教育総合研究所（2008）の定義のもとに進める⁽⁵⁾。宿題とは「教師の直接的な指示・管理の下に行われる家庭学習であり、学校の授業の指導プロセスの一部を構成しており、基本的に授業の一環としての性格を有するもの」とし、家庭学習とは「教師の直接的な指示を伴わない子どもの自主的な家庭学習（自学自習）や通塾による学びなどを含み「教師による内容や提出期日の直接的な指示・強制的対象とはならない」が「自主的な家庭学習として相応しい内容の例示やその進め方、家庭学習の計画づくりの指導、ならびに計画通りの学習が進んでいるかどうかのチェックや励ましなど、子どもの自主的な学習習慣の発信度合いに応じた教師の指導性の発揮が期待されるもので、必ずしも教師の無関与を前提とした学習ではない」とする。

直接的な指示を伴わない家庭学習を行ってくるということは、自ら家庭学習をやってこようという気持ちになることが必要である。

ベネッセ総合研究所（2008）⁽⁶⁾は、「宿題と自主的な学習の両方に取り組んでいる子どもの授業理解度、教科学力はともに高い」という調査結果を報告している。「自主的な学習」とは本論で述べる家庭学習のことと捉えられる。

ベネッセ教育総合研究所（2014）の「家での学習習慣」の資料がある⁽⁷⁾。教師の直接的な指示・管理がある「宿題」は小学生の95.7%、中学生の93.0%が行ってきている。反面、「家庭学習」（「毎日コツコツ勉強する」「親に言われなくても自分から勉強する」「授業で習ったことを復習する」という表現で調査）の数値が小学生で60%前後、中学生で50%前後である。

かつて家庭学習のやる気は、各家庭で行ってこようことを理由に各学習者個人の問題、もしくは、家族の問題としてとらえられてきた。辰野（1987）⁽⁸⁾は、やる気のおこし方として、「具体的目標をたてさせる」「好きなものから始め

*学校教育学系

させる」「結果を知らせる」「無理な要求はしない」「ほめ方・しかり方をじょうずにする」「適度に競争させる」「有能感を育てる」を紹介している。ここでは「適度に競争させる」という項目だけが他の学習者を意識させる進め方である。

学習を個人の営みではなく、社会的な営みとして捉え直す動き（いわゆる「社会的構成主義」）や課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」⁽⁹⁾）の広がりにより、家庭学習にも学習者同士が関わる視点を持って取り組む実践が最近になって少しずつ見られるようになってきている。

例えば、南（2015）は家庭学習を習慣化させるための試みとして「家庭学習における自主的な学習に、仲間と励まし合いながら、生徒自身に工夫して取り組ませることで、生徒の学習への意欲が向上し、学力の定着につながることを検証する」⁽¹⁰⁾ことを目的とした実践研究に取り組んだ。様々な取り組みを行っているが、学習者同士の関わりというところだけを取り出すと「自主学習の優秀例を例示」「自主学習コンテスト」という部分だけに見られる。この実践では学習者相互を意識させてはいるものの、家庭学習の例示やコンテストといった家庭学習ノートを介しての関わりが主であり、直接学習者同士が家庭学習について互いの考えをやりとりする場面は見られない。

河合ら（2002）⁽¹¹⁾は、中学生による「教え合い・学び合い」研究において、お互いの認知的熟達を考慮し、進歩の段階を踏まえてアドバイスが行われていることを明らかにしており、学習者の持つ力を信じることによる学習効果を示唆している。また、水落（2011）⁽¹²⁾は、理科の授業において、学習者が互いに事前に評価方法と評価時期に共通の認識をもつことが、「目標と学習と評価の一体化」（目標に基づいた形成的な評価をくり返しながらか展開される学習）になり、学習者は自主性をもって学習に臨むことを明らかにした。加えて伊藤ら（2012）⁽¹³⁾は、英語の授業でも水落（2011）と同様の結果が得られることを示し、「目標と学習と評価の一体化」の効果に汎用性がある可能性を見いだした。

そこで、本研究では、今まで学校外活動のことであるとして放っておかれがちであった家庭学習に、教科教育では有効であると評価された「目標と学習と評価の一体化」の考え方を適用する。その結果、強制を伴わない家庭学習に提出率の向上が見られるか確かめることを研究の目的とする。

2 調査

2.1 目的

学校外活動であるという理由で学習者個人や家庭に任されがちであった家庭学習に教科教育で有効であった「目標と学習と評価の一体化」の考え方を適用することで、教科教育同様に学習者は自主性をもって家庭学習に臨むようになることを実証する。

2.2 調査の期間

平成28年1月～3月（45日間）

2.3 調査対象

福島県公立小学校6年生 27名

2.4 領域・分野

(1) 家庭学習、朝の活動時間

2.5 記録・分析の方法

2.5.1 研究前までの家庭学習

調査学級では、平日に宿題と家庭学習の2つを課すようにしていた。

具体的には、宿題は学年で採用した市販のドリル集を指定したり、学習問題を印刷して配布したりして家庭で行ってくるように指示したものである。翌日に提出しているか否かを確認し、もし、忘れた場合は、下校までに行うというルールにしてあった。

家庭学習は、各学習者に学習ノートを1冊ずつ配布し、宿題で不足している内容を補うように与えたものである。調査地域では家庭での学習時間の目安が各学年に決められていた。（学年＋1）×10分ということになっており、6学年は70分となる。周辺学校同様、学習者が自主的に家庭学習を行ってくるように学校内での取り組みが図られてい

た。例えば、自己管理や自己統制ができない学習者を想定して学習計画表を作成することである。また、家庭学習の内容や進め方がわからない学習者に向けてよりよい家庭学習の内容の例示を見せるようにもしていた。

2. 5. 2 本研究での家庭学習

学習者の協同的な関係を活用して、目標と学習と評価の一体化の考えを用いて家庭学習の提出率向上を図ることにした。具体的な方策が以下の2つである。

- 1 つは「家庭学習 がんばり帳」という協同的な活動を進めるツールの活用である。
- 2 つは「家庭学習 がんばり帳」を活用するための時間の確保である。

表1 「家庭学習 がんばり帳」に書く内容

- 1 班員の名前を書く。
- 2 今週の日付を書く。
- 3 前週末に今週のめあてを設定する。
週の合計のページ数のめあても書く。
- 4 毎日、書く相手を代えてその日行ってきた家庭学習に関する感想や励ましを書く。
- 5 その日の家庭学習は、班全体としてどうだったかを
書く。
- 6 今週末に今週の反省と今週の合計ページ数、今週過ごした気分を顔印にして書く。

表1は図1の各部分を説明している。

「6」「1」「2」「3」「4」「5」は週末（つまり普通であれば金曜日）に書いて、「4」と「5」は毎日（普通であれば月火水木）書く。

「4」は個人の活動になるが、「3」「5」「6」は班員が話し合って合意のもと、書き加えることになる。これを1月の3学期始めから3月の卒業式前日まで毎週繰り返した。

これらの活動する時間だが、調査校には毎朝10分の裁量の時間があるのでそれを活用させてもらった。

調査学級は27名いるので、4人班が6つ、3人班が1つという構成であった。また、担任は月に1度くじ引きにより席替えをした。1月、2月、3月と3回の席替えがあり、その都度班員の構成が変更している。

2. 5. 3 目標と学習と評価の一体化の考え方

家庭学習のとらえ方から、「目標」「学習」「評価」を取り出したのが表2となる。

4人の班員で「目標」を考え、その達成に向けて協力して「学習」に取り組み、その結果どうであったか目標に照らし合わせて「評価」をする。これが、本研究で言う「目標と学習と評価」の一体化である。1週間1サイクルとして、3学期は10週間あったので、10サイクル行ったことになる。

家庭学習そのものは、家庭で行うわけだが、目標を立てたり、確認をしたり、評価をしたりする時間を朝の活動時間に行った。

図1 「家庭学習 がんばり帳」の実際



図2 朝の「家庭学習 がんばり帳」確認の時間

2. 5. 4 記録方法

記録は主に2つある。

第一に、1月から3月まで45日分蓄積のある「家庭学習 がんばり帳」である。誰がどの程度家庭学習を行ってきたかに加えて、子どもたちの家庭学習の取組の様子や気持ちを汲み取ることができる。

第二に、学習者へのアンケートである。3月の授業最終日に採らせてもらった。3ヶ月間続けた活動の実際の考えを知ることができる。

表2 本研究での目標と学習と評価の一体化

目標	班ごとに週のめあてをたてる。 (目標欄にめあてを書き入れる)
学習	・週のめあてを意識して家庭学習に取り組む。 ・毎朝、友達の家庭学習を見て、コメントを入れ合う。 ・班員全体の取り組みについて、班員で話し合いコメントを書く。
評価	週末に、めあてに対する取り組みに関して、班員で反省をする。 (反省欄に反省を書き入れる)

3 結果

3. 1 提出日数の状態

「家庭学習 がんばり帳」をもとに家庭学習の提出状況を確認したところ、確実に提出率が向上したことがわかった。

表3を見ると、1, 2学期の提出率平均が63.0%であり、3学期の平均提出率が93.7%である。1, 2学期に家庭学習を提出したことがない学習者が家庭学習を行うようになったことが明白である。

また、提出率100%の日は、45日間で12日間あった。同一人物が連続してやってこない日は4日間だった。

つまり、協同的に家庭学習に取り組む「家庭学習 がんばり帳」を始めただけで、提出率が約30%向上し、全くやらない人物がいなくなったと言うことがわかる。

表3 家庭学習提出率

1, 2学期提出率平均		63.0%		
1月	1週	107人中	105人	98.1%
	2週	130人中	123人	94.6%
	3週	132人中	128人	97.0%
2月	1週	105人中	97人	92.4%
	2週	112人中	105人	93.8%
	3週	135人中	128人	94.8%
	4週	131人中	121人	92.4%
3月	1週	110人中	103人	93.6%
	2週	106人中	94人	88.7%
	3週	131人中	119人	90.8%
3学期提出率平均		93.7%		

* 1, 2学期提出率平均は、調査前の平均である。ほぼ特定の学習者(10人)が日常的に家庭学習を行ってこなかったため、その学習者を差し引いた割合の数値を出した。

3. 2 意識アンケートの内容

「教師の直接的な指示を伴わない子どもの自主的な」ものである家庭学習は「強制力」という外的な動機付けが働かないので、やるかやらないかは学習者の気持ちに左右されることが大きい。学習者の気持ちを推し量る意味で、学習者の意識アンケートをとる意味はある。

アンケート項目の一つである表4からは興味深い結果が得られた。

「変わらない」と答えた13人は、名前を確認すると3学期になる以前から、つまり1, 2学期から日常的に家庭学習をしてきた学習者たちとほぼ一致する。

「アップした」と答えた12人は、1, 2学期には家庭学習の習慣がなかった学習者とほぼ一致する。

「ダウンした」と答えた1人は1, 2学期には家庭学習をほとんどしてこなかった学習者である。

つまり、このデータを見る限り、協同的に家庭学習に取り組む「家庭学習 がんばり帳」を始めた結果、家庭学習をやるだけでなく、やる気が向上したことがわかる。

やる気が向上した理由を表5にまとめた。小学校6年生の3学期ということもあり、中学校を意識した理由が若干あった(⑦, ⑧)が、他は「友達と」行うことでの「協同性」を理由にやる気がアップした(①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥)ことを書いている。

表4 やる気はアップしたか(1人欠席26人中)

アップした	ダウンした	変わらない
12人	1人	13人

表5 やる気がアップした理由

- ・忘れずに家庭学習をやる習慣がついた。
- ・友達などから勉強などを教えてもらえた。①
- ・班のめあてを達成しようと思ったから。②
- ・いろんなゲームをやっている感覚でできた。③
- ・みんなと確認し合うのでしっかりやろうと思った。④
- ・みんなもやっているのだから、自分もがんばろうと思った。⑤
- ・やらなくちゃという責任感のようなものをもった。⑥
- ・中学生の準備として。⑦
- ・家庭学習をやらないと中学生の勉強についていけないのではないかと思うようになった。⑧
- ・（家庭学習をやることで）ノートの枚数が減っていくのが好きだから。

やる気に変化がおきなかった理由を表6にまとめた。

表6 やる気が変わらなかった理由

- ・これまでやってきていた家庭学習をただ友達に見せているだけだから。（2人）①
- ・班で見せあうといっても（今までもやってきているので）あまりやる気は変わらない。②
- ・がんばり帳を特に意識したことはない。（3人）③
- ・今年4月に自分で決めためあての通りやってきただけ。④

表6を見ると、他人（友達）を意識することなく、「これまでやってきていた」または「自分はやると決めたからやってきた」というように、友達と協同的にやろうがやるまいが、自主的自立的な学習者（①，②，③，④）が「家庭学習 がんばり帳」の影響を受けずに1年間家庭学習をやり続けてきたことがわかる。

「やる気」と「質（内容）」の関連を学習者のアンケートから見る。表4と表7を比較すると、「やる気がアップした」人物と「内容がよかった」人物はほぼ一致する。また「やる気が変わらない」人物と「内容が変わらない」人物もほぼ一致する。それらの理由を見る。

表7 内容はよくなったか（1人欠席26人中）

よくなった	悪くなった	変わらない
11人	1人	14人

表8 内容がよかった理由

- ・見せ合いを通して、自分もたくさんやらなくちゃという気持ちになった。①
- ・（友達に）見られるようになったから、理科の学習ではわかりやすいようにイラストを入れるなどした。②
- ・週のめあてが「内容をよくする」のような時はいつもよりがんばって内容をよくしようとしていた。③
- ・絵を使ったり、折り紙を使って考えたり、まとめを書いたりするようになった。④
- ・みんなに見られるから汚いと見せにくいので。⑤
- ・友達に見られるなら丁寧にやらないかという気がしていた。⑥
- ・みんなのコメントを意識してやったから。
- ・ノートの使い方などを気にかけてやるようになった。
- ・テストで点数がとれるようになった。
- ・字や絵がきれいになった。
- ・漢字テストの予習や英単語など、前より少しよくなったように思う。

表9 内容が変わらない理由

- ・1，2学期から友達の家庭学習のよいところをまねしていたので。
- ・見せ合っても、やる気に影響は受けない。
- ・あまり考えず気楽にやっていたので（3人）
- ・ほぼ同じ内容のことを1，2，3学期とやっている。
- ・ドリル中心にやっているので変わらない。
- ・班の目標に「内容をよくしよう」というのが無かったので、考えないで今まで通りやっていた。
- ・がんばり帳を意識しなかった。

表8からは、2つのことが読み取れる。一つは、友達と共になんぼろうというように友達に励まされ、勇気づけら

れてやる気が出たという理由（①，②，③，④）である。もう一つは友達に見られる，指摘されるというように友達からの圧力を受けてちゃんとやらねばという気持ちで取り組んだ（⑤，⑥）ということである。数値では勇気づけられ，励まされてやる気が出た学習者の方が多く見られる。

表9からは，表6と関連している学習者が多いからか，人に影響を受けず，自分の考えで取り組んでいる様子がわかる。これらの学習者にとってはアンケートからは「家庭学習 がんばり帳」を行う効果は見られないことになる。

3.3 「家庭学習 がんばり帳」の実際

実際の「家庭学習 がんばり帳」の内容を吟味する。

まずは，「今週の目標」と「今週の反省」との関連を見る。ここには2つの事柄を書くようになっている。一つは文章での目標記述と反省であり，もう一つは数字での目標と結果である。

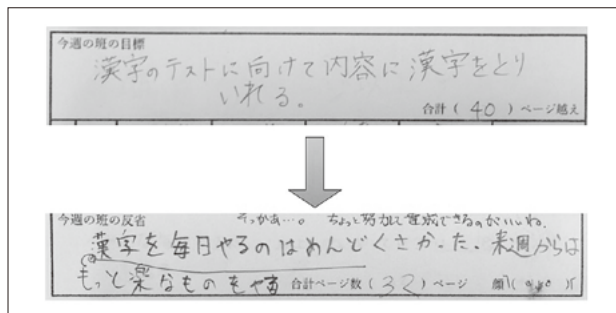


図3 「家庭学習 がんばり帳」目標と反省1

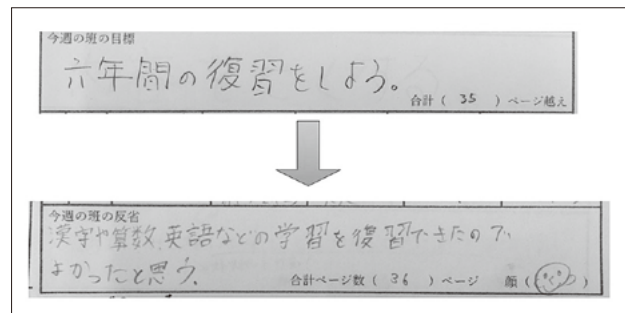


図4 「家庭学習 がんばり帳」目標と反省2

図3と図4は図1の「3」と「6」の部分を取り出した2つの例である。文章での目標は「漢字のテストに向けて内容に漢字を取り入れる」「6年間の復習をしよう」のようなものである。数字の目標とは1週間で全員の家庭学習のノートの合計ページ数が何ページになることを目指すかということである。7つの班で10週分の記録がある。これを分析する。

表10 文章での目標の達成状況（7班中）

1月	1週	5班	71.4%
	2週	4班	57.1%
	3週	7班	100%
2月	1週	5班	71.4%
	2週	2班	28.6%
	3週	4班	57.1%
	4週	6班	85.7%
3月	1週	2班	28.6%
	2週	5班	71.4%
	3週	5班	71.4%
全体の平均		4.5班	64.3%

表11 数字での目標の達成状況（7班中）

1月	1週	6班	85.7%
	2週	5班	71.4%
	3週	6班	85.7%
2月	1週	5班	71.4%
	2週	5班	71.4%
	3週	5班	71.4%
	4週	4班	57.1%
3月	1週	6班	85.7%
	2週	6班	85.7%
	3週	5班	71.4%
全体の平均		5.3班	75.7%

表10だが，2班だけが達成している週が2つある。これらを含め，学習者が「絶対に忘れない」という目標設定（例：1日2ページを絶対にやる）をしたときに達成状況が下がる結果となった。なぜなら，1週間のうち，誰か一人でも家庭学習を忘れた場合，目標の達成とはならないからである。目標を達成させるにはこの文言を入れなければよいのだが，その言葉をどこかの班に入れるのは全員で前に進みたいという気持ちの表れと読み取れる。

表11は，表9に比べておおむね達成状況がよい。全員の合計ページ数であり，誰かが家庭学習をやってこなくても，他の学習者が多くのページをやってくれば達成できるからである。目標の数値を下げれば達成できるわけだが，簡単に100%を達成できる状況にもっていかなかったのは学習者が自らが適度な目標数値を掲げたからと考えることができる。

ここで確認すべきことは，文章での目標も，数字での目標も自らが設定しているので，目標値を下げればいくらかでも達成状況をよくすることができるのにもかかわらず，表9や表10の達成状況であったということである。

学習者に任せると、自ら簡単には達成できない目標値を設定することが分かった。
次に、「家庭学習 がんばり帳」で互いに記入しあったコメントを分析する。

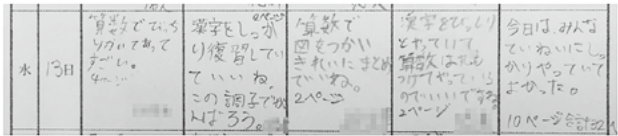


図 5 「家庭学習 がんばり帳」コメント例

毎日、図 5 のようなコメントを子どもたちは相手を替えて書き残していった。このコメントの内容や分量に始めた頃と終わりの頃に違いが見られるか分析をする。全員が家庭学習をやってきた12日間の中で、最初に全員がやってきた月日が1月13日であった。この日のコメントと最後に全員がやってきた月日である3月2日のコメントを比較する。全員がやってきたというところを抽出しただけでありこの月日を選んだことに意図的なことはない。他日で内容に大きな差があることはない。

表12 最初に全員家庭学習をやってきた日のコメント

- ・社会のことがとてもわかりやすかった。
- ・算数の復習ができていてよかったと思います。
- ・目標ファイト！算数できちゃいいよ。
- ・漢字がきれいに書いてあって熟語も書いてあってすごい！
- ・しっかり復習をして、実際に絵も入れわかりやすくていい！
- ・色を使って、目立たせていて見やすいです。
- ・冬休みにあったことをやっていていいと思います。①
- ・復習をやっていていいと思う。
- ・算数でびっちり書いてあってすごい。
- ・漢字をしっかりと復習していていいね。この調子でがんばろう。
- ・算数で図を使い、きれいにまとめていていいね。
- ・漢字をびっしりとやっていて算数は丸付けてやっているのでもいいですね。
- ・しっかりまとめていて大事なところには線を引いていていいと思った。
- ・わかりやすくまとめていていいと思います。
- ・ていねいで見やすいです。
- ・大事な部分を赤ペンで書いてあっていいですね。
- ・算数と漢字を組み合わせでやっていていいね。
- ・天才じゃ！マネできな～い！すげーカッコイイー
- ・理科の予習がイイネ！
- ・ペンでしっかりとまとめていて、わかりやすい！漢字もくり返し何度も書いていていいね。
- ・しっかりできていると思う。
- ・できていたね。
- ・一番きちんとできていました。
- ・絵があってとてもいいと思います。
- ・計算漢字をやっていていいと思います。
- ・もう少しマスを手前に使えるといいね。
- ・漢字をびっちりやっていていいね。

表13 最後に全員が家庭学習をやってきた日のコメント

- ・英語がきれいですね。中学校の予習？②
- ・すご～～～～い。
- ・言うだけあって、漢字びっちりですねー。
- ・もっとまじめにやらないとダメです。
- ・漢字をびっしり！きれいで見やすい！
- ・算数の復習をきちんとやっていていいね。6年生でやった算数もばっちりだね。
- ・中学校に向けて英語を学習していていいね。算数の復習もバッチリ。③
- ・英語の学習しっかりやっていていいね。

- ・熟語だけではなく、文章もかいていていいね。
- ・青字でワンポイントアドバイスがあって、いいね。
- ・6年生の算数について復習していていいですね！
- ・理科や漢字をやっていていいね！
- ・算数を4ページびっしりやっていていいね。
- ・プリントのわかんないところをやっていていいね。
- ・ディズニーのことを調べていていいね。
- ・ポイントを書いているといいねー。
- ・6年のまとめの漢字をやっていていいですね。
- ・めあてとまとめが書いてあって何をやりどうなったかわかる。
- ・算数の復習をしっかりやっていていいね。
- ・中学校の勉強がしっかりしてあってすごい。④
- ・たくさん漢字を書いているイイネ！
- ・漢字がよくできているかな？
- ・あなたは本当に〇〇さんの？っていうくらいきれいだったよ(^_^)。
- ・とてもいい漢字練習ですね。
- ・とてもいい学習ですねー。
- ・いい学習ですね。

表12と表13を比べると、コメントの分量や内容に大きな変化は認められない。学期の始めと終わりという時期の違いによるコメントは認められる。例えば、3学期が始まったばかりで1月のコメントである表12には「冬休み」という文字（①）があり、卒業を意識し始めた3月のコメントである表13には「中学校」という文字がある（②，③，④）。しかし、それ以外の違いは分量と内容からは認められない。

このコメントを書いた人物の中には、表3で「やる気が変わらない」と答えた13人がある。これらの文体からは、どれもやる気があり、友達を励まし、勇気づけ、認める言葉にあふれている。表現上は、互いに称えていることが分かる。

4 結論

「Ⅲ 結果 1 提出日数の状態」から、「家庭学習 がんばり帳」を始めることによって、今まで家庭学習を行ってこなかった学習者も行うようになったことが明らかになり、提出率の平均が研究前は63%であったのが研究中は93.7%になった（表3）。提出率100%の日が45日間で12日間あり、研究前は家庭学習を全くやってこない学習者が数人いたが全くやってこない学習者がいなくなった。

「Ⅲ 結果 2 意識アンケートの内容」から、すでに家庭学習を行う習慣のある学習者には「家庭学習 がんばり帳」には特段意欲の向上に結びつけるきっかけにはならなかったが、家庭学習を行う習慣のなかった学習者にとってはやる気を喚起させるきっかけになったことが明らかになった（表4）。もともと家庭学習の習慣があった学習者は気持ちの変化がなかっただけで、「家庭学習 がんばり帳」を行うことで意欲の低下は見られないことが明らかになった（表6）。

「Ⅲ 結果 家庭学習 がんばり帳の実際」から、自分たちで目標を設定させて、目標と学習と評価の一体化に取り組むことは長期間（本研究だと10週、45日間）一定のやる気を継続させることができると次の二つの視点からまとめることができる。

第一に、目標の達成状況である。週ごとに達成状況が異なる。全体の平均が文章目標では64.3%（表10）、数字目標が75.7%（表11）であった。学習者が目標を設定し自らが評価をするので、簡単な目標にして達成率を100%にすることも、高い目標を設定して達成率が0%になることも学習者の考え一つでできる。しかし、先のような達成状況だったのは、自分たちの力ややる気を客観的に見て、少し努力すれば達成できるであろう課題を設定し続けられたからと予想できる。達成状況の変化が大きく見られなかったことから、1月から3月まで学習者の考え方に変化がなかったことが読み取れる。

第二に、「家庭学習 がんばり帳」を始めた頃と終わりの頃で学習者同士のコメントに大きな違いがなかったことである（表12）（表13）。学習者の個性や文章表現の得意不得意もあるだろうが、どちらでも相手を思いやって丁寧に書いている文章が多い。今後の助言の言葉は確認できるが、相手を傷つける文面は皆無である。始めと終わりで大き

な変化はなく安定して「家庭学習 がんばり帳」に取り組むことができたことがわかる。

5 今後の課題

本研究は、各家庭に、そして、学習者個人に任せられがちであった家庭学習を、学習者同士が協同的に取り組んで行く視点で見直し、家庭学習に教科教育で有効と実証された目標と学習と評価の一体化の考えを取り入れることで、強制力の伴わない家庭学習の提出率が向上することを確かめた事例研究である。10週間、45日間という長期間にわたり、継続した活動の記録を分析して本論の結果を導き出しているが、全ての学級においても同様に機能するかは定かではない。

しかし、家庭での学習時間と学習内容の充実が叫ばれる昨今、強制力を伴わない家庭学習で、学習者自身に目標設定を任せ、目標と学習と評価の一体化で提出率が向上したのは確かである。

今回の研究では、家庭学習の提出率の向上に注目した結果、家庭学習の内容にまで考察を深められなかった。目標と学習と評価の一体化の考えの下、提出率だけでなく質までも高めることができたならより教育的に意義がある。

また、より提出率の向上を進める上でも、そして、家庭学習の内容の質を向上させる意味でも、今回の「家庭学習 がんばり帳」が目標と学習と評価の一体化を進める家庭学習のシートとして最適なのかは別に検証していく必要がある。

今後、この2つの課題を意識して、よりよい家庭学習の在り方について考察を重ねたい。

引用文献および参考文献

- (1) 家本芳郎：「宿題 出す先生、出さない先生——一人ひとりを伸ばすために」, p.4, 学事出版, 1997
- (2) 滑川道夫：「宿題の出し方生かし方—特集・勉強の好きな子・嫌いな子」, 児童心理, 15(11), pp.1305-1313, 金子書房, 1961
- (3) 坂本彦太郎：「家庭学習の教育的意義—特集・家庭学習のさせ方」, 児童心理, 14(4), pp.407-419, 1960
- (4) 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）用語集,
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf (2019.8.28 閲覧)
- (5) ベネッセ教育総合研究所：「授業と家庭学習のリンクが子どもの学力を伸ばす—学力向上のための基本調査2008より」,
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail.php?id=3222> (2019.8.28 閲覧)
- (6) 前掲書(4)
- (7) ベネッセ教育総合研究所：「小中学生の学びに関する実態調査速報版[2014]」
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail.php?id=4340> (2019.8.28 閲覧)
- (8) 辰野千寿：「家庭学習の知恵・三訂版」, pp.25-40, 図書文化, 1987
- (9) 中央教育審議会：初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm (2019.8.28 閲覧)
- (10) 南幸江：学習方法を身に付け、自ら学ぶ生徒の育成—家庭学習の定着を目指す取り組み—, 教育実践研究, 第25集, pp.259-264, 上越教育大学学校教育実践研究センター, 2015
- (11) 河合千尋, 西川純：小集団における話し合いの実態とその変容に関する研究, 臨床教科教育学会, 1(1), pp.15-34, 2002
- (12) 水落芳明：理科実験場面における言語情報と『形態情報』による評価のフィードバック機能に関する研究, 日本理科教育学会理科教育学研究, vol.52, No.1, p.84, 2011
- (13) 伊藤修也, 富田憲太郎, 水落芳明：学習者による「目標と学習と評価の一体化」の効果に関する事例的研究・中学校1学年英語文法学習を通して, 臨床教科教育学会誌第12巻2号, p.15, 臨床教科教育学会, 2012

An Exploration of Home Learning Where Learners Confirm and Evaluate Each Other's Goals

Takayuki ABE*

ABSTRACT

Focusing on students from fourth to sixth grade at a Japanese elementary school, this study explores and assesses activities performed with repeated formative evaluation based on learners' mutual goals (hereafter referred to as integrating goals, learning, and evaluations). Results show that learners are aware of fellow students who study at home, set personal goals, and study at home to achieve those goals. In addition, when learners perform self-evaluations regarding how they have performed, their assignment grades improve. The concepts of integrating goals, learning, and evaluations, which have been proven as effective in subject pedagogy, are confirmed to be effective for studying at home as well.

* School Education